

※ 十八歳未満の購読を禁じます

月詠さんか

いやらしい事を  
されこまう話

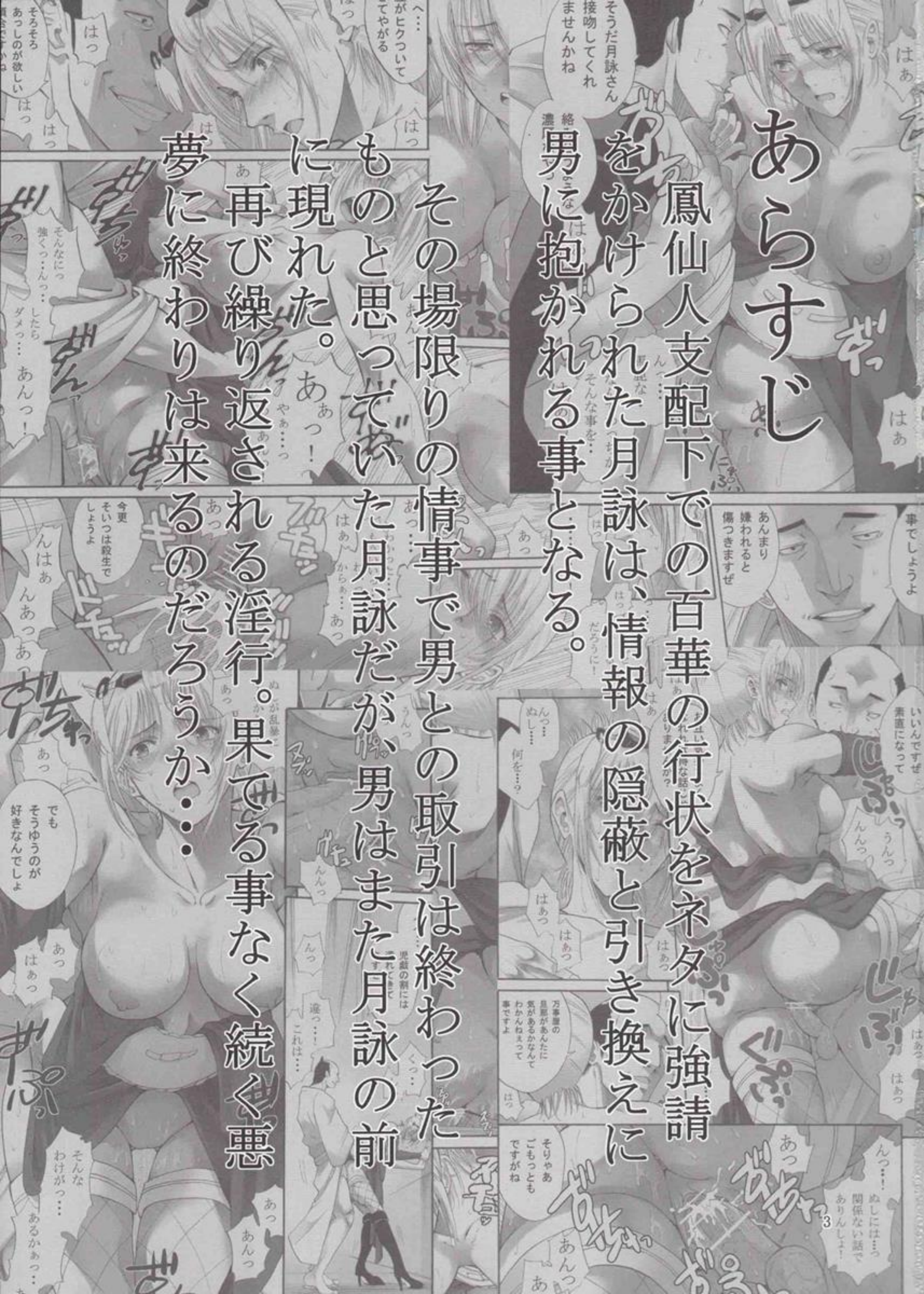


著 かつおぶし

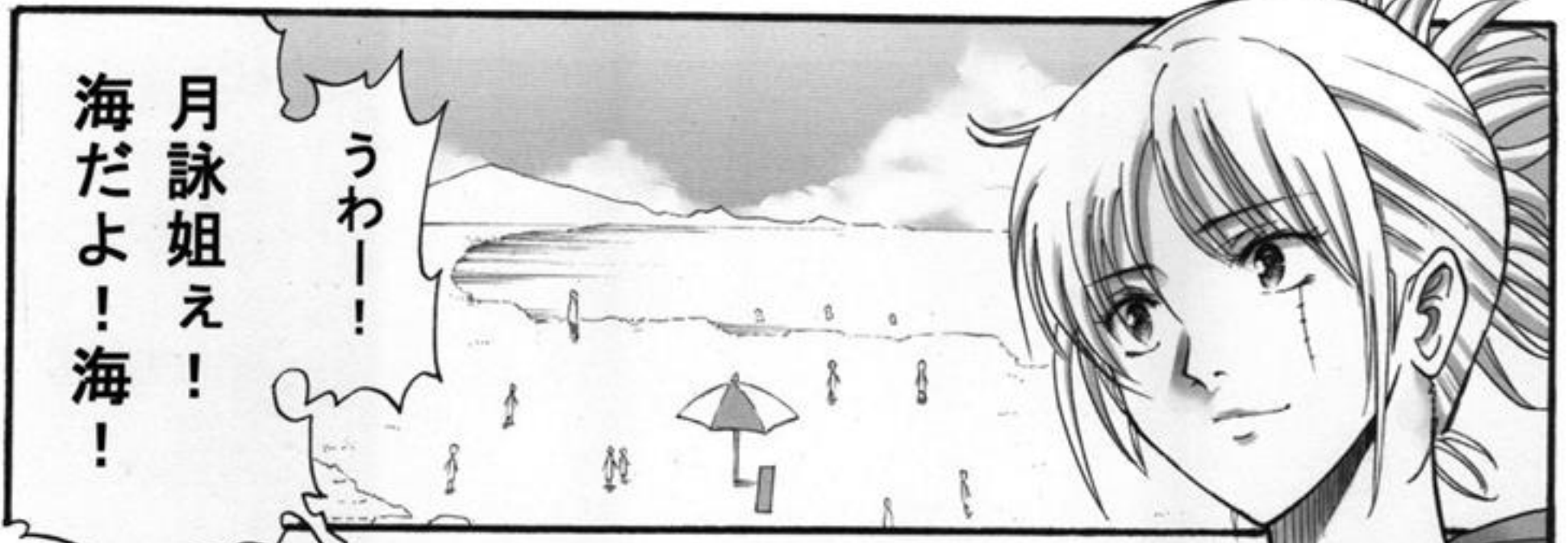
あらすじ

鳳仙人支配下での百華の行状をネタに強請をかけられた月詠は、情報の隠蔽と引き換えに男に抱かれる事となる。

その場限りの情事で男との取引は終わったものと思つていた月詠だが、男はまた月詠の前に現れた。再び繰り返される淫行。果てる事なく続く悪夢に終わりは来るのだろうか……







うわー！  
月詠姐え！  
海だよ！海！



オイラ  
向こうの岸  
まで泳いで  
くるよ！

気をつけ  
なんしよ  
晴太ー



あの男が  
姿を消して  
二週間

わっちの元には  
平穏な日々が  
戻った

それまでの  
わっちの日常は  
屈辱そのもの  
だった

どうにも  
溜まっち  
まいましたね  
やらせて  
下せえよ

ふぎけるなっ！  
なんでわっちが  
そんなっ……！

いいじゃ  
ないですか  
その物陰で  
据めくって  
突っ込まれてれば  
すぐ終わりますよ

丁度  
人通りも  
少ないし

なっ……！

あつしらの関係が  
公になってもいいなら  
拒んでもいいんですぜ

……  
……好きに  
しなんせ……



あんまり良くって  
声が抑えきれ  
ませんか？

へへ…  
相変わらず  
最高の具合だ

~~~~っ！  
少しは遠慮  
毎度毎度…  
せぬかつ…！

そんなわけが  
あるかつ…！

はあ

はあ  
はあ

あつ…！

あ…

あつ

くうっ…！

ほん

ほん

ズン

ほん

ほん

ほん

はあ

ほん

はあ



んんっ……んんっ……  
!!!!

んっ……!!

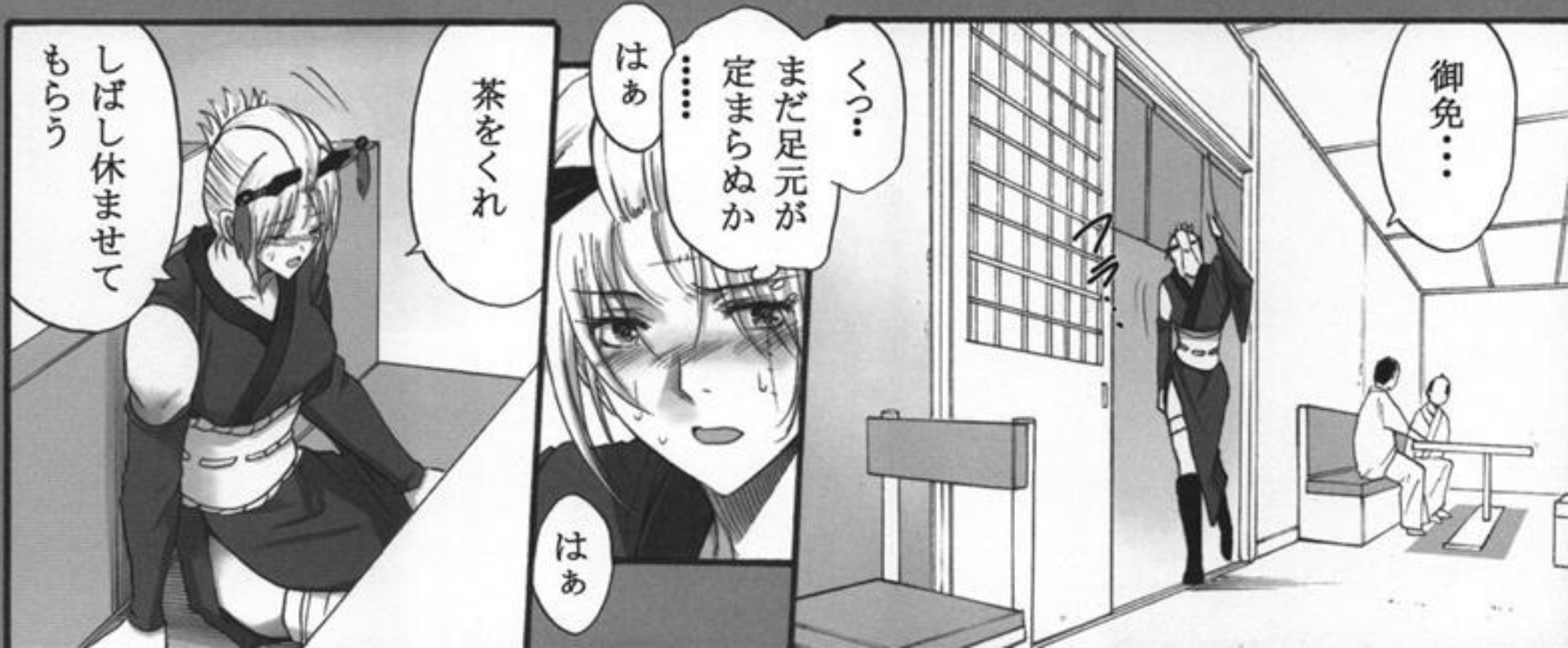
んんっ……んんっ……



へへ  
どうも  
ご馳走様  
でしたぜ

はあ

はあ



御免……

くっ……

まだ足元が  
定まらぬか  
……

はあ

茶をくれ

しばし休ませて  
もらおう

はあ







そのクズに  
イカされる気分は  
どうですかい

んんう...!

!!!!



クズで結構  
ですがね

んんっ...!

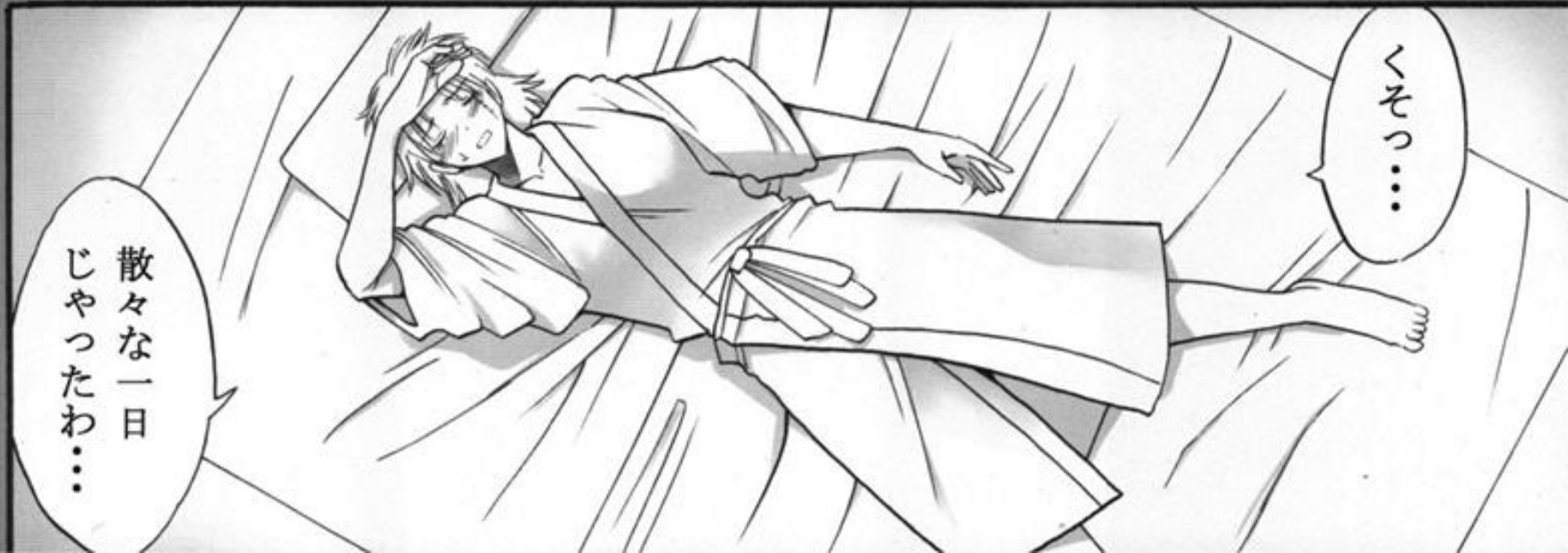
んっ!



へへ...  
じゃあ  
また...

はあ

はあ  
はあ



くそっ...

散々な一日  
じゃったわ...





チンポ  
突っ込まれながら  
睨み付けしないで  
下さいよ

とことん……!  
腐った性根を  
しておるな……

余計に  
イキリ立っち  
まいますぜ



そうゆう所が  
またソソルん  
ですよねえ

あ……!  
あっ……止め……  
あんっ……!!



あっ……!  
やあ……っ

あ……!!  
……ツ  
!!!!



男は時も場所も  
選ばす現われ  
わっちの身体を  
陵辱し通した

半日と空けず  
それも毎日

しかし  
2週間前

突然男は  
姿を消した



だが……

どうも  
奇遇ですね

どうせ  
どこからか  
監視して  
いたんで  
ありんしょ

あらら

随分嫌われち  
まいましたね

わかってるなら  
その薄汚い面を  
一生わっちの前に  
さらすな

まあ安心して下せえ  
あっしも他のシノギが  
忙しくてね

これが最後の  
逢瀬かもしれねえ

それにしても  
名残惜しいなあ  
あんな事や  
こんな事

もつと愉しみ  
たかったん  
ですけどねえ

また……  
この匂い……

ス……



月詠さんの身体  
思い出したら  
勃ちっちゃった

ああ  
いけねえや



つ……



参ったなあ  
往来も  
歩けませんぜ



心底  
度し難い  
男じやな!

知るかつ……!



どうした  
もんですかね  
月詠さん

コレ



いやあ  
嬉しい  
ですね



まさか  
月詠さんから  
誘ってくれる  
なんてねえ

難癖をつけて  
不埒な事をする  
腹であつたらうに

んっ

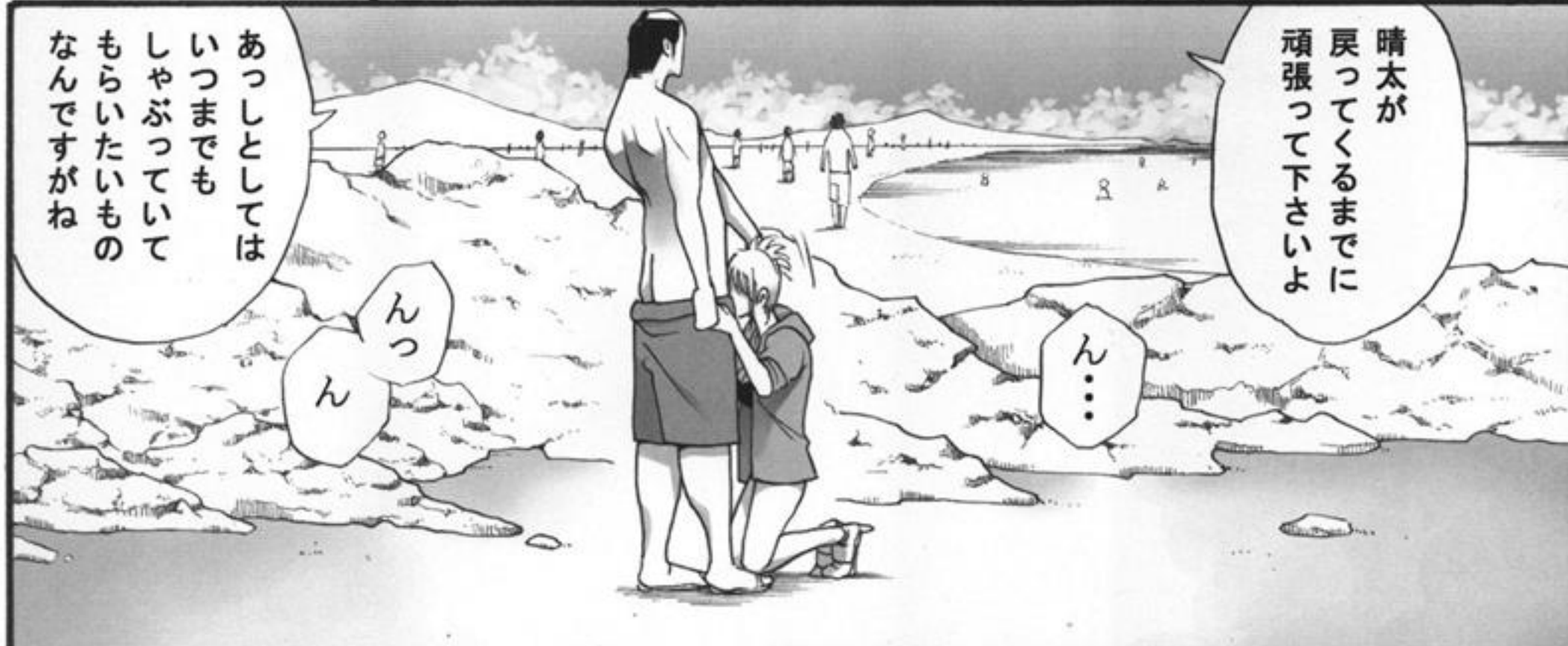
んっ

んっ

んっ

んっ

ぬけぬけと  
ぬかすな!



晴太が  
戻ってくるまでに  
頑張つて下さいよ

あつしとしては  
いつまでも  
しゃぶっていて  
もらいたいの  
なんです

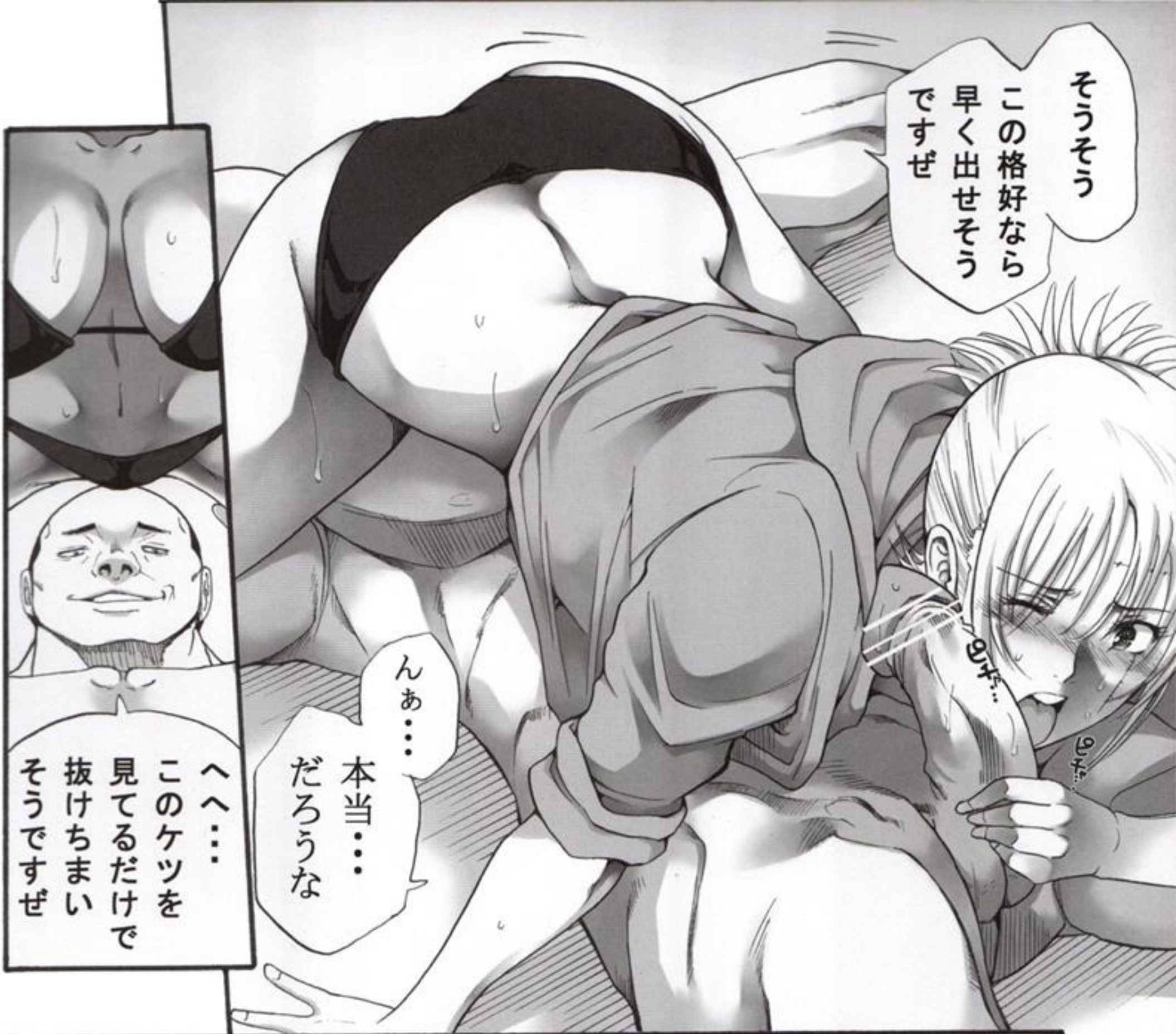
んっ

ん

ん







そうそう  
この格好なら  
早く出せそう  
ですぜ

んあ……  
本当……  
だろうな

へへ……  
このケツを  
見てるだけで  
抜けちまい  
そうですぜ



フンッ！

ブルブル！

ん……



このケツを  
前に我慢なんて  
殺生でしょうよ

んっ！



！



くっ……



んっ

んっ

あぁ あっしのしている事は気にしないでしないで下せえ

射精したら さっさと退散 しますんで

ん…

んっ

んっ

んっ

ふっ

んっ

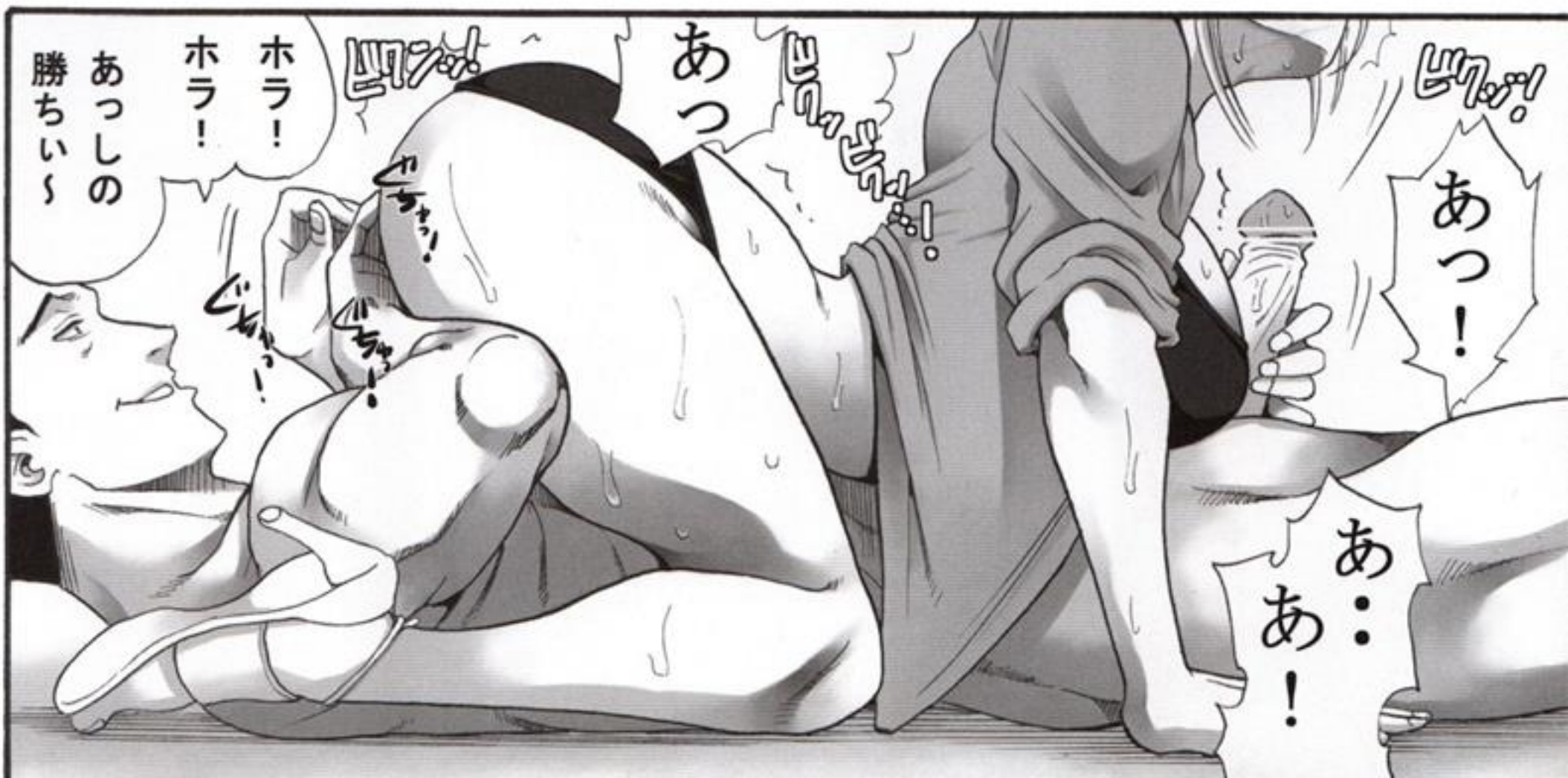
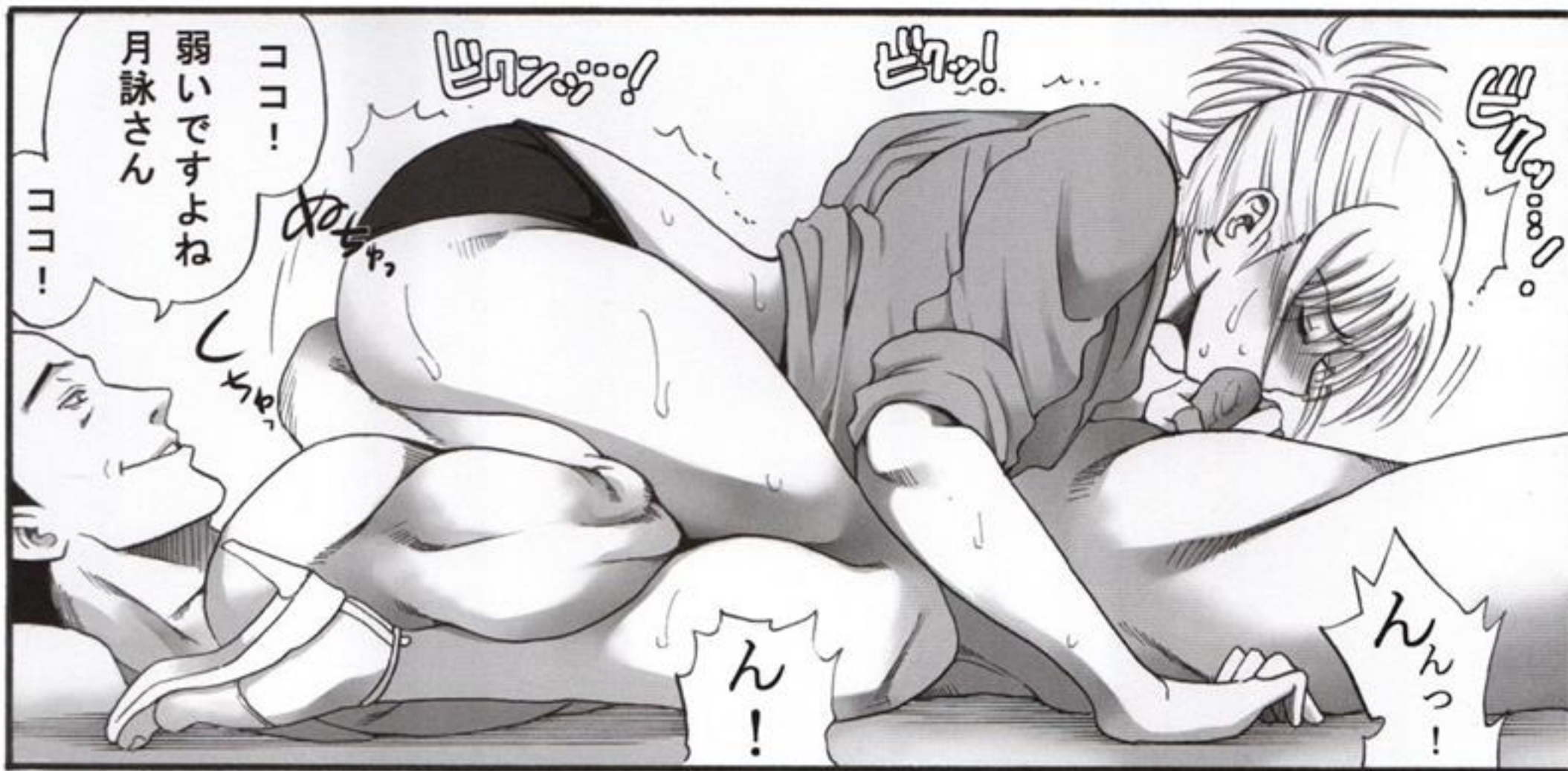
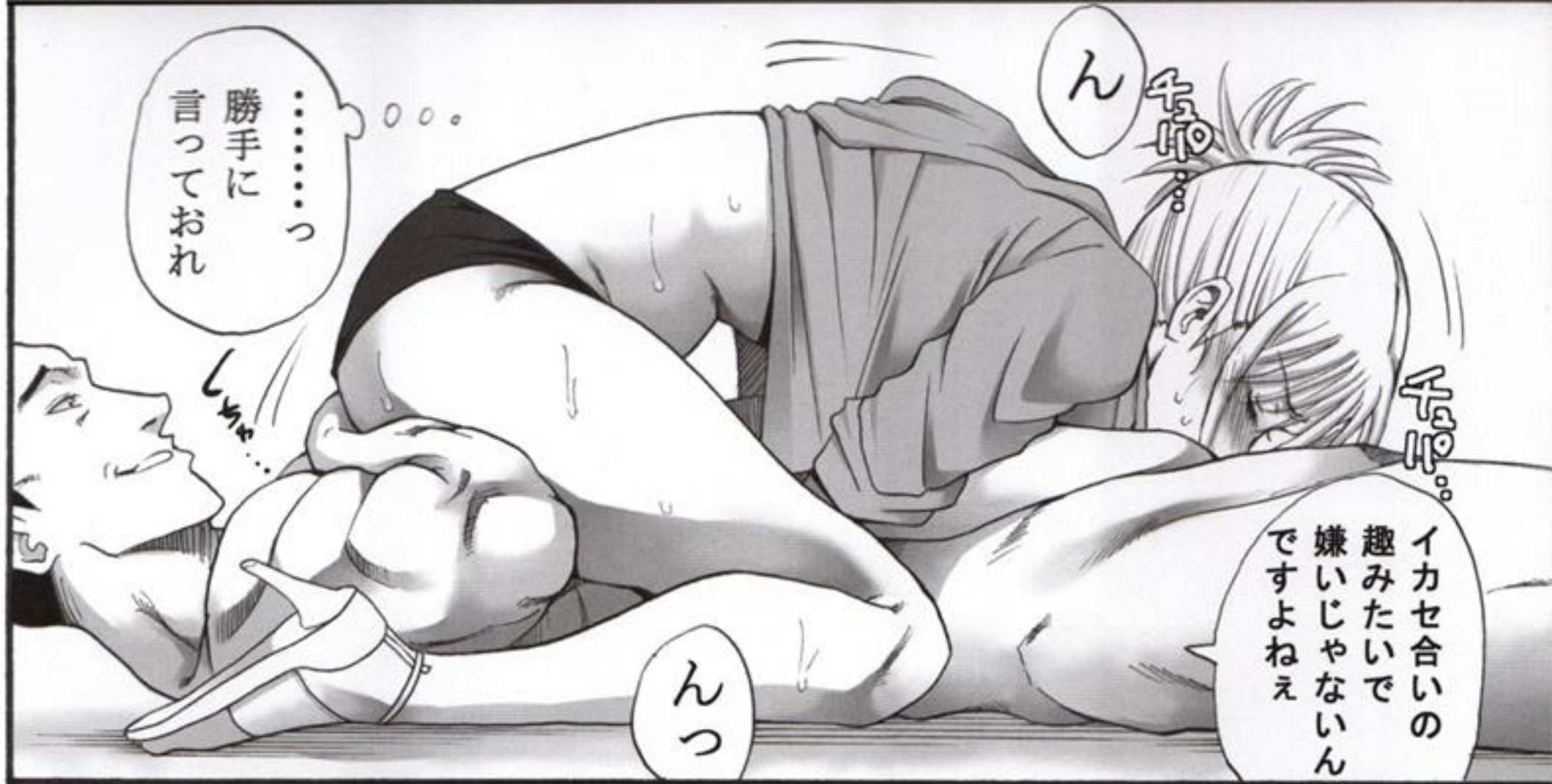


へへ… っつ見ても 美味そうな マ〇コしてらあ

んんっ!!!

びんっ!!!

んっ



ちよつと待てっ！  
手を止めるろっ…！

あっ

…話がっ  
違つてきては  
おらぬか!?

あっ

んー  
どんな話  
でしたっけ？

はっ

そうは  
言つてもねえ

やっ…

あ！

でもねえ  
これじゃあラチが  
開きませんぜ

あんっ…！

あっしもさっさと  
又きたいんで  
別の手法で  
試しませんかね

？



どうしました？  
もっと動いて  
下さいよ

くぅ……

それとも  
気持ちよく  
なっちゃいま  
したか？

違わわっ！  
こんな  
破廉恥な格好には  
慣れぬだけじゃ！

はっ



挿れさせて  
くれれば早い  
んですけど

ダメです  
かねー

わっちは  
ぬしの情夫  
ではない！  
勘違いすな！



ぬん

はっ



まあ今日は  
我慢しますよ

きゅん！

キョッ



何をやるっ！  
やめんか！

素股やるなら  
こうしたほうが  
いいでしょうよ  
知りません  
でしたか？

やっ



こっ…これ位  
知っておるわ！

ぬしは  
黙って  
寝てる

ホントは  
今思いついたん  
ですがね



これは  
もしかして  
お互いに愛撫  
し合っている  
ようなもの  
ではないか？

はあ  
はあ

はっ

はっ

んっ

ん：

しゃに

しゃに



ああ…もう…  
直に触れ合っ  
ているではないか

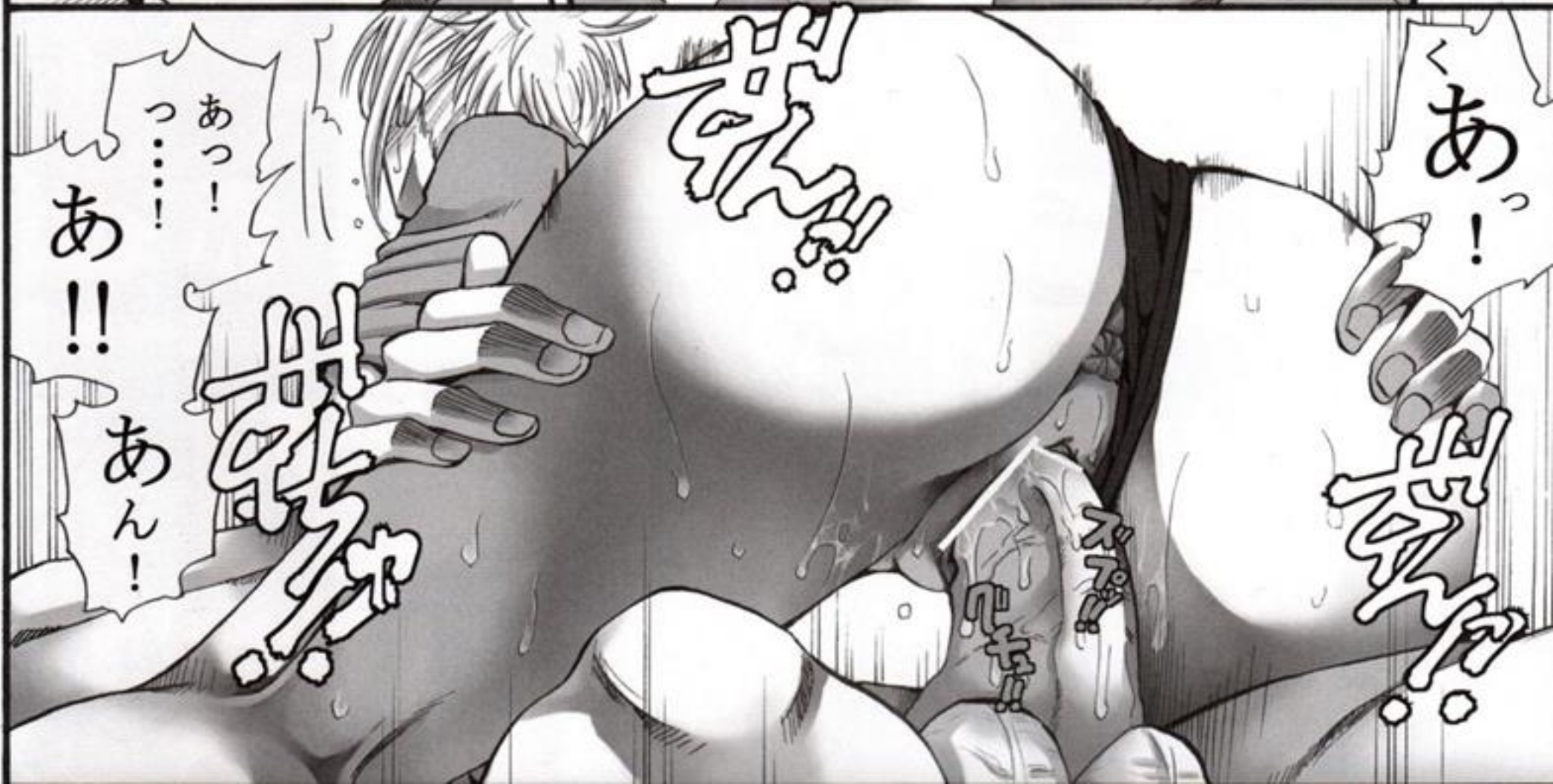
はあ

はあ

でも…  
挿いっていない  
のだから…

はあ

はあ



あーこらっつ…やめんか！  
勝手にっ…んんっ…  
動く…なあ…っ！



んんっ!?



んっ…  
んん  
!!!!



ふう  
ん…  
ん







動くのを…んっ…  
しばし止めようっ!

待てっ!  
抜かんでも  
良いっ…

ふあ

はあ

あっ

あっ

あっ

あっ

ズボッ

ズボッ

ここに  
至っては……  
止むを……んっ  
得まい……

いいんですかい  
挿入っちまって  
ますぜ

はあ

わっちの  
ココ……

使わせて  
やるから  
早う出せ

はあ

ぶちゅっ……

ぐちゃ……

はあ

仕方  
あるまい

はあ

はあ

ふちゅっ……

ワチャ……

ふちゅっ……

今は晴太が  
戻る前に  
終わらす事が  
先決じゃ  
しかし……



へへ…

!

ズッ

これではまるで  
自ら求めている  
ようではないか

そこらっ…!!  
寄るな!

そりゃあ  
殺生でしょう

あつ

わっちは  
なんと淫らな  
事を…

はあ

ズッ

ズッ

はあ

ズッ

はあ

はあ

ズッ

はあ

はあ



そこまで艶っぽさ  
出されちゃあ  
こっちも収まりが  
つきませんぜ

はあ

はあ

はあ

ぬかすなっ!

ぬかすなっ!

ぬかすなっ!

そんな顔  
見せられちゃあ  
我慢出来ませんぜ

はあ



あん！

ズッ

あ

ズッ

ズッ

あんっ

身体はそうは  
言っちゃいけない  
みたいですがね



くっ...

はっ

はあ

はあ



はあ

ズッ

ズッ

はあ  
はあ

ズッ

ズッ

はあ

ズッ

そのキレイな顔を  
あっしのイチモツで  
歪ませてみたく  
なりましてね

ふざっ...けるなっ!

いつもぬしの  
思い通りにっ...  
なると思うな!

ズッ

ズッ

はあ

あつしの上に  
跨る月詠さんは  
気持ち良さそうに  
見えましてたぜ

あつし  
あつし

あつし  
あつし

それは：  
…あん！  
成り行きで：  
仕方なくじゃ！

あつし

あん！

あ！

あつし

あ  
あ  
はあ

あつし

あつ

へへ…  
否定はしない  
んですね

あ



うっ…  
うるさいっ！

へへ…  
それじゃあ  
お待ちかね

あつ

あん



はあ  
あつし

あつし

あつし

待てっ…！

中っ…ダメ！

あつし

あつし



あっ!

あー!!!!

やあっ...

あー!!

あー!!



それじゃあ  
今日はこれで  
失礼しますぜ

はあ

はあ

二度と...

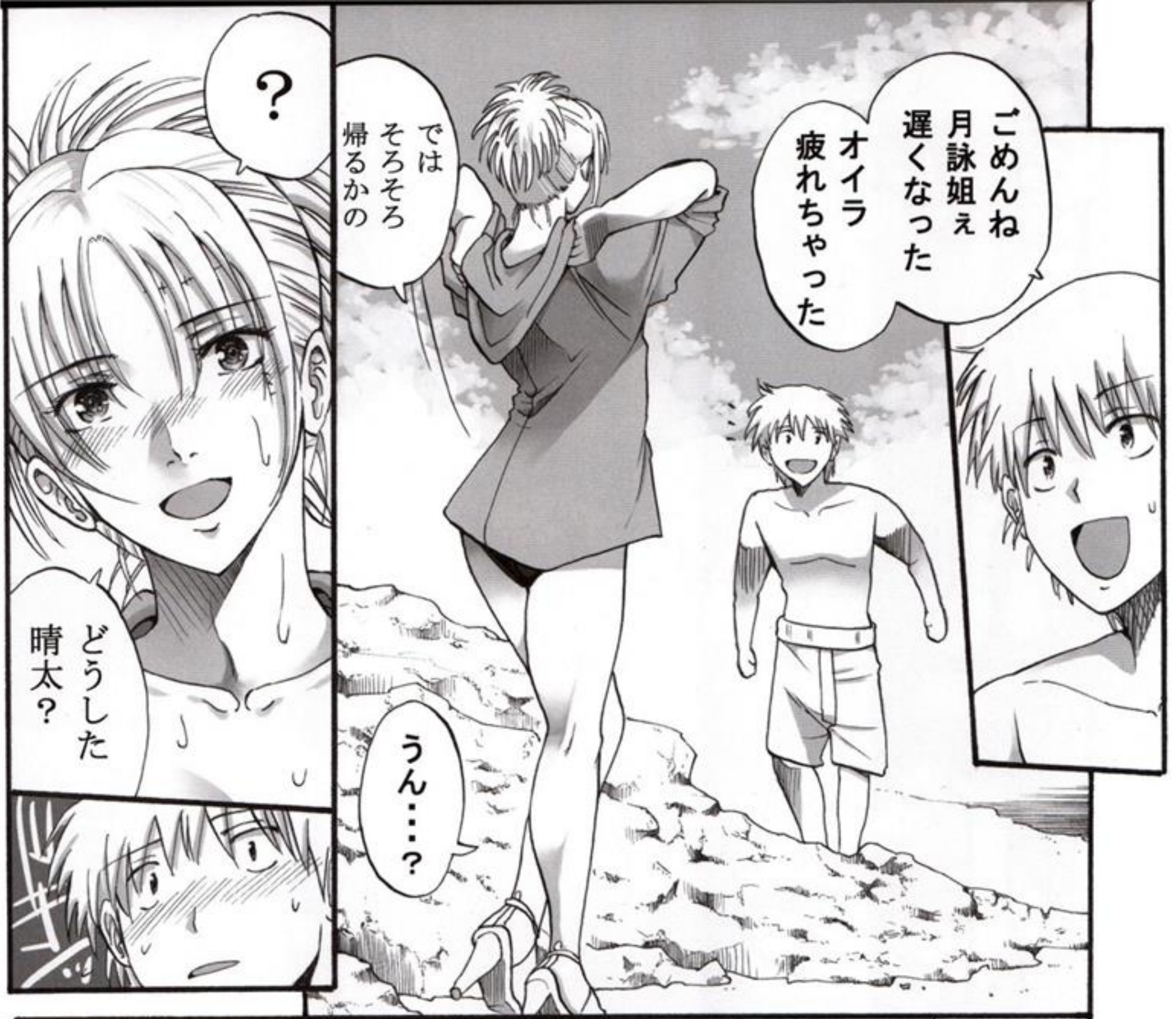
来るな...



はあ

はあ

ぬち...



# 後書き

どうも、ホリエです。  
この度はご購入ありがとうございます。  
買ってない人は呪われてしまえばいい。

さて、懲りずに出しました月詠本3。  
売れてくれれば5までで完結するように話は  
考えていたりします。どうかなー。売れてくれ  
ないかなー。チッ)

アニメ本編もめでたく延長戦とゆう形で放  
送復活しましたし、映画も夏公開って事はそ  
れまでなんらかの形で続いたりするんじゃない  
かと希望的観測をしております。

そんであれですわ。爆発的な銀魂人気が世間  
を席卷して(ダジャレではない! 断じて! 韻を  
踏んだだけ!)そのジャンル効果はセーラーム  
ーンバブルを彷彿とさせ、表紙に月詠を描いた  
だけで本が飛ぶような時代が...

来ても、まあそれはそれで嫌なんですけど。  
そもそもそんなブームは来ねえし。

そんなわけで月詠布教の為に明けても暮れて  
も漫画描いていたわけなんですけど、ふと思ひ立  
つわけですよ。最近特に。無性に。

「懸垂がしたい」

昼間公園に行くにあらぬ事案が発生する懸  
念があるので夜ひっそりと懸垂しに行きます。  
するとね、いるんですよ悪そうな少年達が。大  
人は誰もわかっちゃくれねーんだ。みたいな。  
もうナチュラルポーンチキンの私としては足  
の震えは止まらねーわ、小便は漏らすとゆうか  
放尿レベルの流出量で大変ですわ。

「それでも懸垂がしたいっ!」

その一念だけで鉄棒に近づくと少年達はガ  
ン見ですよ。絶対に私の懸垂回数を数えるわけ  
ですよ。こりゃあもう勝負ですよ。

負けてられません。日頃一日中パソコンに向  
かいあってても信心があればなんとかなる。宗  
教の勧誘に来てた何某かがそんな事言ってま  
した。塩ぶっかけてやりましたけど。

結果、6回。

まあアレですよ。肩まわして「久しぶりだと  
キツイわ〜」とか呟きますよ。

運動している中学生なら10回出来るとか  
ゆうのは都市伝説に違いない。





# 奥付

月詠さんがいやらしい事をされてしまう話3

発効日 2013年2月11日  
サークル かつおぶし  
著者 ホリエ  
印刷 上野印刷所 様

メールアドレス

[horieug@jn3.so-net.ne.jp](mailto:horieug@jn3.so-net.ne.jp)

URL

<http://horihorihori.blog.so-net.ne.jp/>

※この本の無断転載、複写、転写  
及び18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます。

